

# さ ざ ん か

第68号、2007年6月

梅雨。五月雨。昨年は伊佐地域・さつま町は豪雨災害で大変でした。恵みをもたらす川内川も時には脅威を齎すこともあるだろう、それが自然というものだ、ということは重々知ってはいても、まさかここまでの被害をこうむるとは思ってもみませんでした。(はからずも危機管理意識の低さを露呈したともいえます)。自然の持つ二面性をあらためて思い知りました。でも、すべて、とは言いませんがものごとには殆ど二面性があるのが普通ではありますよね。いいところ取りばかりじゃないのが世の中。逆に言うと、悪いことばかりじゃないよ、というのも世の中のはずですが、こと医療界に関する限り、良い芽は見当たらず悪いことばかりのような気がします。

医師不足、看護師不足で病院は人手が足らず、患者さんに対応する人数が少ない分、一人ひとりには忙しくて患者さんすべてに十分目が行き届かないこともあります。

しかし、患者さんが食べ物をのどに詰まらせたり、転倒して骨折すると病院の管理が悪いとしかられ、場合によっては医療裁判に。もうやってられないわ、と思っている人も多いようです(特に病院勤務のドクターやナース)。患者さんは患者さんで、医師不足の影響を受けています。特に地方では小児科医、産科医が少なくなり、とうとう種子島ではお産ができなくなるとのニュースも。経済性で全てを測ってしまうと、もともと生産性のない医療はその価値基準からはずれてしまうのは当たり前です。子供が年間何人以上生まれないとペイしないから産科は撤退するという理屈や、子供の少ない田舎に小児科専門医を派遣するより、子供の数の多い都会に集中して医師を集めたほうが合理的・効率的である、という理屈が堂々とまかり通っています。ここまで医療にえげつなく経済性を持ち込まざるを得ない原因は、間違った資本主義(拝金主義)の蔓延と医療費抑制というニッポン国の国策にあります。どうして医療費を抑制することが国策にならないのでしょうか。病気の子供を助け、働き盛りの成人の病気を予防し、安心して老後の医療を受けるために、お金をかけることがニッポン国の滅亡に繋がる(医療費亡国論)とはどうしても思えません。このつらい医療環境で儲かっているのは、製薬メーカーと医療機器メーカーだけで、主役の医療者(医師、看護師など)と患者さんは共に泣いています。ならないものなのでしょうか。

俳句

西屋敷喜美子

生垣を 超ゆる青葉の 満ち満ちて

若菜風 禁煙席に 座りけり

## 病院からのお知らせ

- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でお尋ねください。骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。
- \* MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中やボケ（認知症）の予防につながることもあるからです。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。
- \* 新式のマンモグラフィーが入りました。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- \* 5月から神経内科花田浩一部長→竹之内徳博部長に変わりました。
- \* 心臓超音波検査は松作薫医師が火～金曜日担当します。
- \* マルチスライスCTで、一部冠動脈造影もできます。その他全身の血管撮影に威力を発揮します。人は血管と共に老いる、ともいいます。MR血管撮影とあわせて利用できます。ご相談は各科の主治医にどうぞ。
- \* 「さざんか」はインターネットでも配信しております。下記のアドレスをご参照ください。遠くの家族の方に自分がかかっている北薩病院の様子を教えたい方も是非、ご利用ください。

<http://www.synapse.ne.jp/~hokusatsu-hp/>

（「鹿児島県立北薩病院」で「検索」した方が早くて確実かも知れません。）

## 戦地の思い出 貴島高則

アリューシャン列島アッツ島山崎大佐の指揮下の守備隊 2379 名は 1 万名を越す米軍の上陸を受け、艦砲射撃を受け昭和 18 年 5 月 29 日、雪を食って最後の突撃を敢行し戦争初の玉砕となった。

短きを何かなげかむ

君がためお国のために捨てる命を（1 兵士が詠んだ歌。よみ人不詳）

アッツ島が攻撃を受けてから大本営は 1 機、1 艦も援軍を送らず、1 週間で見捨ててしまった。私達は、キスカ島の上空を飛んでアッツ島に行く米軍機を眺めているだけで、何の手助けも出来ませんでした。

「奇跡の撤退」と言はれ、映画にもなった日本軍のキスカ撤退はアッツ島玉砕後、キスカ島駐留の守備隊 5,500 人は作戦を急遽、変更。7 月 29 日米軍の攻撃が途絶えたすきに、濃霧に紛れて無事脱出を果たした。

7月後上陸した米兵は日本兵の代わりに、撤退直前日本軍に撃墜された米軍パイロットの墓を発見、十字架と「青春を母国のためにささげた英雄ここに眠る」という英語で刻まれた墓標に感激したという。この話を覚えていた元米軍大佐が平成5年4月、国際山岳兵連盟の会合で、埋葬のいきさつを問い合わせ、その際合同慰霊祭への参加を打診、日本から2人参加する事になり、キスカ撤退50周年日米合同慰霊祭が行われました。

---

## やりたいことはどんどん主張してやる ― 宮園辰夫

年を取ったら、自分のペース、生活リズムで生きるよう心掛けることも大切だと思う。年寄りだからと、引っ込んでいたら、ますます社会から疎外されてしまう。自分から邪魔にならないように、そうならない為には、変に遠慮したり、イヤなことを我慢したりしてはいけないと思う。それがボケない秘訣なんじゃないかな。その人の持ち味を生かして生活をし、本人も堂々とやりたい事はやり、主張しなければいけない。回りの人の為に言いたい事も言わないでいると、かへって不親切というものだ。言いたい事があったら、ハッキリ言へないぢや、何の為に70歳、80歳まで生きてきたのか分からない。やっぱり若い時の苦労が、年取って花開いたという人生でなければ・・・ね。

私の父の場合は母が若くして死んだから、一緒に暮らしてもよいという女の人がいればいいのだ。それ聞いてびっくりしたけど、おやじはやがて子供5人が・・・と考えたら、辛抱してお前達を育てるのに精一杯だったと、後で聞いて本当に嬉しかった。しかし、その為に貧乏で旧制の中学校までで、中退、16歳の4月少年飛行学校へ志願で行きました。

今の世の中は、熟年離婚を希望する人もいる。それも世の中が変わったせいもあるが、父は子供に心配させたくないと考えてのことと思う。それを考えると、可愛想で悪い気がする。昔と今は違うけど、その人にとって本当に価値あるものを大事にしてやらないと、と思う。今は全然違うけど自分丈がよければ、人は、そして家族なんてどうでもいい。好きな人が出来れば自分の子を殺し、親も殺して欲望に走る人も少なくない。でも、やっぱり自分を亡ぼし、天罰を受けて初めて気がつく。その時には誰も助けてくれない。

夫婦というのは年を取ってからの夫婦でありたい。年寄り丈の寄合い、老人クラブ等で楽しもう。私が今通っている病院に、それはそれは誠に優しい体格のよいニコニコしていらっしゃる副師長さんがいて、正面玄関の所で患者さん一人ひとりに挨拶をし、顔色を見て世話して、あちこち走り回っていらっしゃる。楽しい事ばかりではないでしょうが、何時もニコニコして待合の患者さんに挨拶をして回り、そして自分のことをダンプカーと

呼び、体格も良いのに、あんなに気持ちよく走り回って、正面の所にデンとしていらっしやる。表面だけでも似てみたい。フリーの小型ダンプがあと2、3台いれば、1台よりも患者さんも喜ぶでせうに。これからもずっとお願い。(失礼)

田に入れば気持ち良き水の温もりに 田植の準備忙しき

梅雨入りて雨の間に忙しき手を休めてアジサイの映え見

===== カラーマン、二重基準を考える ===== カラーマン (とその女)

ちかごろ、ダブルスタンダードって言葉が流行っている。(二重基準ってことでしょ。二重規範とはどう違うのかしら？要するに2枚舌ってことでしょうか？)

自らは核爆弾を所有しながら、新しく持とうとする国にはそれを許さないのもその一つだろう。しかも、この二重基準はしばしば情勢によって変動する。北朝鮮はいつのまにか核保有国になってしまった。何がなんでも核保有を許さないといって、ありもしない大量殺戮兵器の存在をでっち上げて、イラクを侵略し、今なお占領している米国がなぜ北朝鮮の核保有に対しては、イラクに対したような強固な態度を取らなかったのか。核をもってしまったインドやパキスタンに対する米国の態度を見ると、一旦核を持ってしまった北朝鮮に対してもその態度は変わることは十分ありうる。持ってしまった以上は仕方がないかと。そういう中では、北朝鮮への対抗上、日本の核武装論が出てくるのもある意味当然かもしれない。(えーっ、日本にも核武装をするって話があるの？世界で唯一の被爆国なのに・・・信じられないわ。とんでもない人たちね、そういうこと考えるって)

(参考までに、「核武装論—当たり前の話をしようではないか」西部邁 著 講談社現代新書 )

人類史上唯一の被爆国であるニッポン国の使命があるとすれば、それはまず、米、英、仏、露、中の5大国に核兵器を廃絶しろ、ということだと思う。(まあ、それはそう思うわね。当たり前だわね！都市をまるごと焼きつくすのはもうやめてほしいわ)

日本は米国の核の傘に守られているから安全であると思っている人が多いようだ。核廃絶を訴えながら、事実上、米国の核に守ってもらっている。これも立派な二重基準だ。核兵器反対なら米国の核にも守ってもらわなくても結構、という姿勢が必要だろう。(そういえばあたしたちの政府が米国政府に核を捨てろと言ったという話は聞かないわねえ。人類史上唯一の核使用国なのにね、あちらさんは)

しかし、残念ながら、核廃絶という言葉はカッコいいけど、現実にはありえないと知る

べきだ。誰が先に核を捨てるのか？まず米国？イスラエル？北朝鮮？みんな一斉にせいで仲良く平和のために核兵器を捨てましょう……。理想論であり、現実的でない話という意味では核廃絶論は非武装中立論と両輪ともいえるだろう。

二重基準の存在を知ることは、人間社会を理解することの一助になる。

人の命は大切だと思うけど、毎日何万人も飢えて死んでいく貧しいアジア・アフリカの子供達のために生活費を削ってまで、彼らに送金できるかどうか。目の前のスイーツ一つが、何人分もの子供のワクチン代になると言われたらどうする。人の命は大切だけど、そのこととわれわれがお金を寄付することとは別であり、それが現実というものだ。というの広い意味での二重基準かもしれない。

一方、神という絶対的な基準がある一神教の社会では本来二重基準はありえないはずで、神から授かった命は大切だけど、彼らの基準に属しない異教徒の命は大切ではないから皆殺し（中世の十字軍やインカ帝国の滅亡など）にした。ヨーロッパを逃れた清教徒はアメリカ大陸のインディアンをたくさん殺した。彼らにとってはこれらの行為は二重基準にはなっておらず単一の基準だったのだ。二重基準を使わなくても大量殺戮が可能であった。原爆使用もその意識の一端を表しているのかも知れない。恐るべし一神教。多神教（もしくは人によっては無神教）のニッポン人はそのことをわきまえて彼らと付き合いなければならないだろう。

（そのほかに、二重基準ってある？）

ジャーナリストという基準と金儲け（視聴率や販売部数）という基準。一部のマスコミ関係者には、国民の知る権利のために取材し、報道することはなにものにも優先する、という傲慢さが見え隠れすることがある。（そういえば、芸能人の結婚式の中継とかお笑い芸人が外国の地でクイズに出て賞品を貰ったりする番組なんか、一応報道番組になるらしいわよ。その程度の情報なら、あたしの知る権利は放棄するんだけどなあ）。芸能リポーターもジャーナリストの範疇なのだろう。

（それじゃ、「ジャーナリスト宣言」ってことは「芸能レポーター宣言」と似たようなものなのね。どこかの新聞がテレビでコマーシャルしてたわ。なんか、ぴったりね。）

テレビ局は認可制であり自由競争ではないという事実と、生きるために談合をせざるを得なかった地方の建設業者などとの比較はどうだろうか。テレビ局も何百局もあって、その中で自由競争をし、それを視聴者が選んで視るとするのが良いのではないだろうか。談合を批判するマスコミそのものが談合体質（数社で放送権を独占している）だという二重基準。

マスコミ以外にも、政治、経済、教育問題、男女共同参画問題、そして医療関連にも沢

山の二重基準があるからそれを考えるのは結構楽しいので、眠れない夜なんかは、羊を数えるかわりに、いろいろあげてみたらどうだろうか。(医療の世界では、患者さんがすべてだとか言いながら、自分達がしたい手術とか、より高額な治療法やクスリを押し付けたりしてないのかしら。自分のため、を患者さんためと置き換える巧みなすりかえはないのかしらね)

一方、二重基準を徹底して否定すると生きていけなくなるというジレンマもあるのが世の中である。命は大切であるが、われわれは他の命(動物、植物など)を奪わないと生きていけないのだから、あまりに「命が大切」を至上主義にしてしまうと自らの存在そのものを否定しないといけないことになる。(それは、いわゆる原理主義におちいるなっことでしょう?カチカチの石頭で、視野狭窄の人っているのよねえ。極端な動物愛護主義者とか。ヒトも動物も、みんな同じ生きているから、1人にひとつずつ大切なイノチ!なんてね。そのくせ焼肉が大好きだったりするのよね)

愛がすべてであるけれど、愛だけでは生活していけない。生活(お金)が大事であるけれど、愛のない人生は空しい。この辺のバランスをどうやって生きていくのか、人生における大きな課題となるだろう。(あら、あたしは愛もお金も大事だからあたしの中ではどちらを同時に求めてもぜんぜん矛盾しないけどなあ・・・なぜバランスが必要なのかしら)

核廃絶、非武装中立が成立しないのと同じように、人間自身に欲望、狡猾、疑心暗鬼、独善、冷酷さなどの属性がある限り、観念的に愛だけで生きていくのは、現実的にはそれは難しいことだろうと思う。やはり、それなりの二重基準を持たざるを得ず、理想通りには生きていけないのも、また人生でもある。

(ふーん。カラーマンってどちらかというと理想主義者かと思っていたけど、意外と現実的な面もあるのねえ。さりげなく、愛が全てではない、なんてしたり顔でいったりして。なんか見損なったなあ。もっと純粋な人かと思っていたわ)

人生は短い。愛を探し求め続けている間に、気がついたら人生がもう終わりそう、というのがお前のようなアホ女の結末だろうよ。(あたしはそれでも構わないわよ!たとえそれが幻であったとしても・・・、それがあたしの運命だとするならば。)

---

## 編集後記

---

梅雨になりました。みなさん、雨の日はお好きですか。もしかしたら、苦手な方も多いかもしれませんね、傘を差すのが面倒くさいとかの理由で。雨のエアポート、雨の慕情、悲しき雨音、雨に唄えば、雨の御堂筋、雨やどり、雨にぬれても、長崎は今日も雨だった。沢山の雨の歌があります。雨の日はカラオケに出かけて、雨にまつわる歌でも歌って鬱陶しい梅雨のジメジメを吹き飛ばしましょう。(KT)